

あなたの身近にも 水素エネルギー!



**水素が動かすみやぎの未来!
燃料電池(FC)バスを
体験してきた!!**

CO₂の排出を削減できるということで注目されている水素エネルギー。水素と酸素の化学反応で発生させた宮城県では電気で走る燃料電池(FC)バスの導入を推進しています。FCバスがどんなものなのか? 水素エネルギーがどんなにすごいものなのか? 体験してきました。



8月にFCバスの 実証運行を実施

その日は宮城県から委託を受けた宮城交通による実証運行が行われ、宮城大学線、宮城学院線など、県内で初めて路線バスのルートを走行しました。

使用車両はトヨタ自動車のFCバス「SORA(ソラ)」で定員79人。仕組みはトヨタが2014年12月に発売した世界初の量産FCV(燃料電池自動車)「MIRRA(ミライ)」と同じで、エンジンを持たないので静かな走りです。電気モーターで車輪を駆動するためギアチェンジの必要もなく、揺れや振動が少ないのに感動。

乗客の皆さんからも「乗り心地が快適」「静かだから話がしやすいね」という声があがっていました。

CO₂を排出しない クリーンなバス

どのように発電しているか気になるのですが、高圧タンクから供給

される水素と大気中の酸素を「燃料電池」内で化学反応させて発電しているとのこと。水に電気を流すと水素と酸素が発生する「水の電気分解」の逆の原理で、水しか発生しないクリーンな発電となっています。

高圧タンクに水素が少なくならず、水素ステーションで充填。充填時間も短く快適です。水素ステーションではマイナス25.3℃まで冷やして液体にした状態で水素が貯蔵されているそうです。さらに注目したいのが、災害時に外部に給電する機能を搭載していること。被災地での電力供給に威力を発揮するものと期待されています。

水素エネルギー利活用の 様々な施策を展開する宮城県

現在、宮城県ではFCバス以外にもレンタカーやタクシーという形でFCVの導入を展開。県内への水素ステーションの整備も促進しています。10月には登米市、11月には大崎市でトヨタMIRRA、ホンダCLARITY FUEL CELL(クラリティフューエルセル)の試乗会も開かれる予定です。

FCバスは排気ガスではなく、水が発生します。車体後部にはウォーターリリス機能が付いています。車内のパネルではFCバスの仕組みを分かりやすく表示していました。



あなたは水素エネルギーを知っていましたか?

**アンケートに答えると抽選で
素敵な賞品がもらえます!**

投稿 & 応募はこちらのアンケートサイトから

<http://miyagi-suiso.com/iroha/>



仙台市宮城野区にある「イワタニ水素ステーション宮城仙台」で水素を充填。また、同水素ステーションでは、隣接する「セブン-イレブン仙台幸町4丁目店」に設置された純水素型燃料電池に水素供給を行っています。これにより店舗での電力の一部も水素で賄うことが可能になっています。

